

2025/R7年7月20日 017 柴田知彦

第109回紫友まち歩き

～最新トイレ巡りその2、

庭園美術館（旧朝香宮邸）～

見学したトイレ4箇所は、恵比寿の駅から近いエリアにも関わらず、それらを巡ることで普段立ち入らない公園や神社、路地奥まで、思いもかけずに表と一味違った恵比寿の街を知ることになりました。

さらにもっと違う世界へうごく歩道で数百m、駅から遠く離れた独立した開発エリアなのにとともにぎやかな恵比寿ガーデンプレイス、その奥の丘の中腹の木陰の公園を経て、質の高い住宅地から高速道路沿いの場末を通り抜け、最後は超文化的な大邸宅朝香宮邸（庭園美術館）まで、新から旧、喧騒から静寂、極端な変化を体験するまち歩きでした。

梅雨明けの青空の下、さほど暑くもなく、木立を抜ける風も加わり、快適な時間を過ごせました。

案内人： 浅見さん（011）

日時： 7月19日（土）

集合： 13時30分 恵比寿駅西口改札

参加： 倉林（015）、小林（俊夫016）、
山口（025）、柴田（017）

コース：

恵比寿界限4ヶ所の最新のトイレをめぐるります。

その後、動く歩道で恵比寿ガーデンヒルズへ。広場や建物内の商店アーケードを

通り、その背後の公園で一休み、住宅地を抜けて目黒まで足を伸ばし、庭園美術館（旧朝香宮邸）を訪ねました。

庭園美術館はわが国随一のアールデコ様式の名作で、インテリアはアンディ・ラパン、加えてルネラリックのガラス作品をはじめ多くの美術作品で飾られています。

【アールデコ様式】

25年様式とも呼ばれる装飾美術、建築様式の名称。1925年パリ開催「現代装飾美術Arts Decoratifs・工業美術博覧会」を中心に、世界的潮流となった。

第一次大戦後の新しい価値観を背景に、大量生産、機能主義へ移行しつつある産業と現代の大衆化社会を反映している。車や飛行機のスピード時代に対応した直線とジグザグを主題に、工芸や職人技が装飾に生かされた最後の時代、私たちの知る現代のモダニズムの直前、プレモダーンの時代ともいう。

<まち歩きスタート>

写真を見ながら楽しんでください。

恵比寿駅西口改札前で集合。

総勢5人、011から017のシニア4人と025の若手1人（といっても古希）、少人数の楽しさを味わいました。



駅横のカフェで昼がわりにパンケーキを購入。お客は全員若い女の子たち

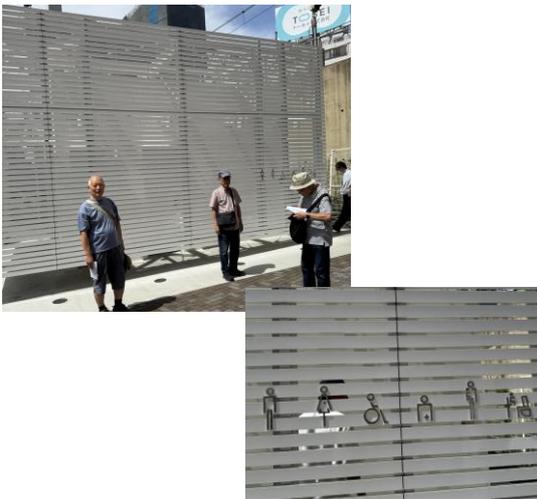


恵比寿駅の恵比寿像

① 駅を出てすぐのトイレ

でも気づくか、どうか・・・よく見るとサインもあるが、遠目にはわからないので、焦っている人は見落とすかも。全て「だれでもトイレ」のブース、身障者と一般の共用トイレです。

駅前の人と建物で雑然とした中、目立ちすぎず、わかりやすくありたいと、真っ白な横桟仕上げの四角形、シンプル清楚なデザインとしたとのこと・・・好感の持てる存在です。



② 恵比寿公園のトイレ

数枚の木目打放しコンクリートの壁を組み合わせ、その奥にブースを配置している。公園の遊具のような印象を狙っている。



公園自体の存在感、魅力を高めているところが狙い通り成功している。

③ 恵比寿稻荷神社

旧社名：天津神社 本来6神を祀っていたが、区画整理で遷座するとき時代主命（恵比寿神）を合祀、地名に合わせて改名
すぐ脇の通り道で見かけた極小のホテル



④ 東3丁目線路沿いのトイレ

ニューヨークで活躍する女性工業デザイナーの作。極狭の立地に三角を基調としたシンプルなデザイン。

見過ごされる山手線沿線が、赤いオブジェのような存在で生きた場所になりました。背後の緑に赤が映えています。



⑤ 恵比寿東公園トイレ

分散配置を柔らかくうねる屋根で繋いだ白いトイレ群。小さな中庭に樹木が1本風にそよいでいたのが印象的。



形態的に公園に融合させたトイレ作品は数多いが、機能的にも公園の休憩パビリオンとして役立っている秀作。ベンチから望む清水の水景(右)やシンボルのモミジ(左)も同じ設計者だとしたら、両方のつながりでかなり優れた仕事と言えそう。

私たちも思わず長い時間を過ごしました。

その後恵比寿駅に戻り、そこから

⑥ 動く歩道で「恵比寿ガーデンプレイス」へ

サッポロビール工場跡地の再開発事業として計画され、1994年に開業した商業施設、オフィスビル、ホテル、マンションタワー群などの複合施設です。

今回ここで休憩を考えていましたが、どこも思いの外混んでいて場所が見つからず、施設にとっては結構なこと、負け惜しみを言いつつ通り抜けました



背景はフランスのシャトーを移築

⑦ その背後の「三田の丘公園」

標高15m差の中段にある公園で休みました。古木の作る木陰に風が抜けて、遊びに興じる子どもたちを遠目に、快適な時間でした。

高台の住宅地を目黒方面に向かいます。途中「長者丸駐在所」を通りすぎました。都会のど真ん中に交番でなく駐在所(警察官ご家族がお住まい?)、昔華族や明治の元勳が住む地域に設けられたのではと想像します。そうなると、当初数1000坪を超えていたと思われるお屋敷群が今は50~100坪に細分化された歴史に想いを馳せますが、それでも立派な住宅地でした。



⑧ 庭園美術館（旧朝香宮邸）

高速道路沿いの怪しげな路地を通り過ぎると世界は一変、しっかりと整った一画に出ます。100年を超える銀杏の並木、古木のつくり出す鬱蒼とした道筋は他よりも涼しく、その先で庭園美術館のゲートが迎えます。



長いアプローチの先にアールデコ様式の建物が見えてきます。内部には落ち着いた各種の部屋と装飾芸術が展開しています。

写真で紹介しますので、楽しんでください。



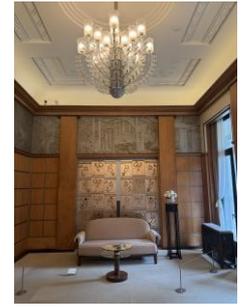
広い庭は35,000m²（10,000坪）、屋敷前の芝庭、その奥の西洋庭園、斜面低地は池水のある日本庭園に、この組み合わせは、当時のお屋敷の3点セットとも言えます。



ラリックのガラスレリーフ



香炉照明



テラス前のギャラリー



ダイニング



新館



今回は時間も体力もなく割愛、目黒の街へ出て慰労会へとあしばやに進みました。

懇親会 17時から

「魚金」目黒駅前セントラルスクエア1階

なんと、駅前の近代ビル、それも数階分吹き抜けたピロティー内は、昔この場にあったと思われる飲み屋さん群。(上階は高層のオフィス)

おそらく地上げの時にその権利を得たと思われる不釣り合いな飲み屋さんそのものなお店が並んでいました。ビル内の路地でなく、通路の方が広い堂々たる空間に並ぶ飲み屋さんです。

その一角に構えるは、「魚金」

コース料理に飲み放題¥6000 がなんと支払いでは¥5000 に・・・小林さんが65歳以上は値引きになると聞いたけど、と交渉した結果か・・・よくわからないままに安くなりました。

最初の野菜サラダとわかめの煮物は高齢者の血糖値に嬉しいメニュー、ヒラメ1尾のお造りは美味しかったです。

ムツの煮付けまではなんとか楽しみ、その後の天ぷらは子供のお土産にほぼ全て持ち帰り、最後の素麺はなんとか食べ終えました。

お店を埋めている若者は、これを平らげるのですね。

目の前の目黒駅から山手線でそれぞれ帰宅しました、多分無事に・・・



入り口横のポスター

数字の意味がわかりますか??

ネットで調べるまで皆目不明。

興味ある方は調べてみてください。

